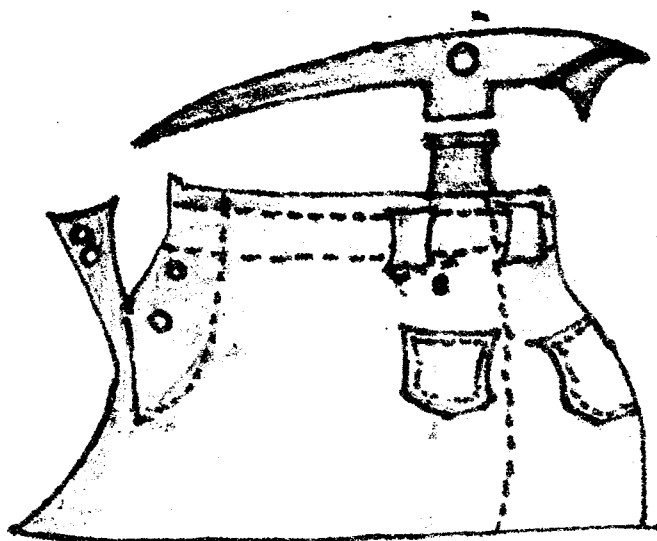


こぶし

第六号



KIKUO.



上越こぶし山の会

目

次

こぶし オ六号 白馬登山特集

白馬登山特集発行に当って

上越こぶし山の会会長 嶋田五郎 1

二班 木島忠彦 3

一年振りの山行 松岡健一 3

山賦の歌 4

白馬登山に参加して 三班 諏訪田由美子 5

三班 リーダー 清水 5

白馬山行の反省 吉木博明 6

白馬のおもいで! 池田洋子 6

白馬登山に参加して 三班 坂口二三子 7

白馬に登って 四班 高倉三津枝 7

快晴の白馬に登って 四班 小林敬蔵 8

四班 芳沢善久男 8

初めての登山 五班 北川しゆ子 9

おしらせ 山娘 10 10

白馬岳登山の感想 六班 原勝次 11

白馬登山 六班 飯塚八重子 12

白馬登山感想 八班 山口保男 13

白馬登山を顧みて 八班 C.L. 田中進 13

一般募集登山について 杉本敏彦 15

白馬登山特集

発行に当って

上越こぶし山の会会長 嶋田五郎

こぶし山の会が今年も、一昨年、昨年に引きつづき白馬登山を計画し、広く一般に呼びかけ、七月十九日夜行二日は登山という例年通りの日程で山行を行いました。

こぶし山の会が結成されて以来私達のスローガンである「安全楽しく安全な登山」の立場で白馬山へ行きたくてもなかなかその機会がなく、最近に行けない多くの人達に羨しい自然を感じて体をきたえ、又地域、取場の違った人達と交流の場とあり、今年で四回目の計画です。

当初今年は一、他の山 言う事で検討して計画を進めて来たのですが、日程、費用の点で今年も白馬山と言うこと

にたり、バス二台、百名を目標と言う事で取りくみました。

参加者は九十三名で目標をほぼ達成することが出来ました。

今年の山行は昨年のように雨に逢わない様にと大休梅雨があけると二十日とした。幸い梅雨もあけ終日天候に恵まれ、紺碧の空の中を、大雪渓、忽平、小雪渓、お花畑と言うコース、雪と花を十分に楽しみながら、又つらい登りは協力しあい、下りの雪渓は一歩一歩緊張しながらだったと思いますが、登り下り一件の事故もなく今回の山行に三参加者全員の笑顔の中で終了するのとが出来たことを皆様と共に喜ぶたいと思えます。

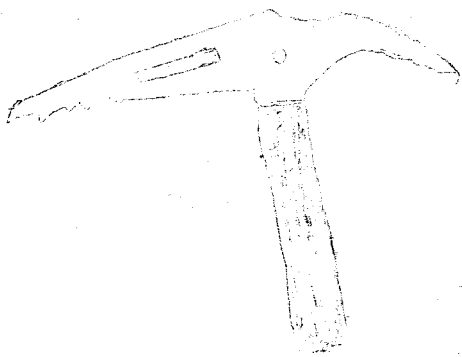
しかし今年の山行をふりがえって見ると、主催者側の手落ち等のため参加された皆様方にくつかの点で御迷惑をかけたことを反省し今後の山行の中に生かしていきたいと思えます。

第一点は例年の事が当然猿倉まで入れると思つていたバスが、昨年よりも

大型だった為二段しか入れなくなり、その事が直前になつてわかつたため帰りのバス手配はついたが行きは手配が出来ず、二段から猿倉まで約二時間多く歩くことになり、白馬三山徒歩のコースを断念せざるを得なかつたことと、一般コース参加者の人達の中でのこの二時間が大分影響して若干名が山頂まで行けなかつたのではないかと。沖二点は昨年と遠い天候が良くマコースがハツキリしていたの、力の有るものがどんどんと先に行くという点が残念でした。以上の点は、これからの中で克服してまいくため検討すべきだと思つていきます。

一番心配された雪溪の下りは例年より雪が多かつたのがかえつて雪溪の状態が良く、小雪溪と後は大雪溪の降り口だけザイルを張るだけで全員無事に整然と下山したことは良かったと思ひます。しかし、会の力不足によつて若干

の人が山頂を目の前にして下山した事は残念でした。以上、二、三今回の山行に對して不十分な点を反省し、今後より多くの人の要望に答えられるよう会自身も力量を付けて山行を計画したいと思つていきます。今後共、皆様方の御協力をお願いします。最後にこの白馬登山の特集号が昨年につづいて発行出来たことを、皆様と共に喜びたいと思ひます。また、編集や、原稿を寄せられその成功のため努力された多くの皆様方に敬意を表したいと思ひます。



しかし、会のカ不足によつて、マ若干

二班 木島忠彦

白鳥一般募集山行も今回で連続三年目になるが、天候雪深、山頂の展望、一般参加者の体調も

三回のうちで一番良かったように思う。

出発に際しバスは二候迄しか入らない事を聞かされ、これは大変だ、計画よりも二時間も長い距離を歩かねばならない。バテル人が急務出るので、しかしそれは取り越し苦勞で我々二班は全盛好調のうちに無事頂上に立てた。ただ今回の山行でスツキリしない人が一人居る。帰りのバスの中で歌に、語に、全員参加しても、らしい、最後まで又、我々にとつても有意義な山行としたく、全員がマイクをにぎっているのに、そんな事を知つてか知らぬか、又は知つていても、早朝の出発の疲れで、とてもそんな事に協力出来ないのか、ほとんどの人が、夢心地であった事だ。我々にすれば、一般参加者を、白鳥の頂上に無事立たせてやる事だけが目的ではないはずである。ここを一般の参加者も、又会員も自覚し協力、行動しなくては、ならないのではないかと考える。

次回的一般募集山行は、二の辺をスツキリさせ

るべし、充分な計画をたてる必要があると思う。

一年振りの山行

板岡健一

一年振りの山行が我々の一般大衆山行の白鳥であった。この山行には自命として当所の予定は参加するつもりは無かった。山行から離れていた一年間のブラニクはこの白鳥には体力的、精神的にも近付き難いもので自信はなかつた。負けない雪深上と岩場の上を一步一步確保してたえず気を使って登るには不安があつた。

しかし登山で心強いのが、やわしい当会員の諸輩の勧めでこのパーティにも属さず自由の立場で参加してはという二とで我々二んで同行したのである。それから来りて頂上へは初めから立込め考えてあつた。せいかい白鳥尻か雪深又は葱平あたりで昼飯をして皆を待ち受けようと思つていた。つ中明々の強い日差しは時かたつにつけて第一杯に焼つく感じだつた。腫脹不足の目に雪からの反射光がづらい程まぶしかつた。真青な空の下に白鳥の金ぼうが強くど、トリと噂を

えていた。どうしようとする内に大雪渓を過ぎ、平
へ取りついた。ここで白馬尾より同行した。班
の小林さんと協議の結果、一応小栗を渡り、板
けようとに相成り、板がし又可笑しくもまだ
まだ上への機軸にいんだのだ。ここから頂上
迄約一時間。あの頂きの地を二の足で踏むとい
と云う欲望の為、却の予定を廻り行つたのだ。
多数の集団行動から一人離れ、勝負をまよな山行
をせねばならなかつた自分にとって、何人とも
無念い有り寂しくもあつたことに改めて反省す
ること知る者老のを感じている。望む。

山賊の歌

一雨 がふれば 小川かでき
凡 が吹けば 山が出来る
ヤッホ ヤッホホホホ さましい心
ヤッホ ヤッホホホホ さましい心

二夜 になれば 空には星

月が出れば 俺等の世界

ヤッホ ヤッホホホホ みんなを呼べ

ヤッホ ヤッホホホホ みんなを呼べ

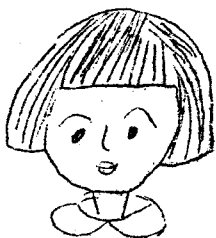
三、風が吹けば 波がたち

波が立てば 舟が沈む

ウツシ ウツシシシシ 沈んだ船は

ウツシ ウツシシシシ 俺等のものさ

あしきい



山賊の歌 二参加して

三

白馬登山に参加して

三班 諏訪田由美子

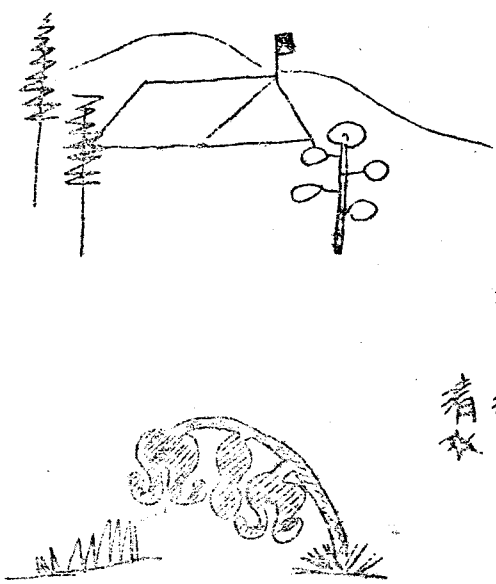
今回で、二回目の白馬行きでした。去夏は雨に降られでしき是非晴れてほしいと思つていたので、とてもすばらしい思い出になったと思つています。それにして、19日の出発の二日前から眼科へ通うはめに厚い眼帯を常時しなくては、いけません。いけないうりみんながら、片目で登るので、とからかわれ私自身とても不安だったのですが、帰って来てからすくはずすくことが出来ました。どうやら自然の雄大さや、景色のすばらしさに病氣の方も驚いてひっこんだようです。しかし夜愈までの二時間がきいたのか、大雪を登るときは苦しかった事、そしてつくづく自分の体力のなさを思い知らされました。こんな今回の登山を経験しましたが、なおさら山というものが好きになつたみたいです。貴重なお宝を出して作つてくれた白馬登山に参加でき、今後の山登りに経験を望みし山の思い出を増やしていきたいと思つています。

三班

二股から予定にない平坦な道を猿倉まで歩く。白馬系までは何とか一列にまよとまよつていた大雪で「ファイト」ファイト」と氣勢をあげた、しかし麓平からパースの早い者とあそい者に別れはじめた、このへんでバテた人たちのザツクを三班内で持ちまよとまよつて行動するように指示すれば良かったと思つ、次回からは気をつけよう。でも金沢無事に着いた

記 三班リーダー

清秋



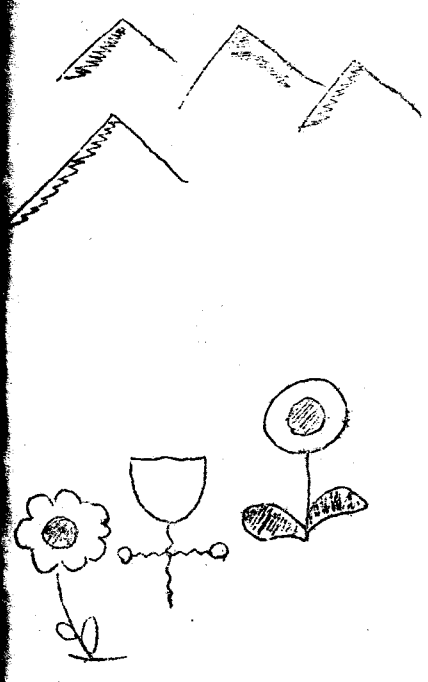
白馬山行の反省

吉木博明

一、班の反省点を2、3上げて見たいと思います。
一、班が分離していた事、最終的には2つに

別れて、早く言えば11名のうち2名が頂上まで来なかつた事だ。歩く時間が長か、たことも上げられるがやはり頂上へ行くべきであつたらう。なぜなら女性は全員がんばつて上つたのだから、

二、天気が良かつたこと。昨年とは、うって變つて晴れた。会でつゆの明けるところを、中ら、たのと参加者全員のおこないの良かつた事に感謝しなければならぬ。
三、その他についていろいろ反省点があるが、事叙りなげ、たのが一番うれしいことだ。



白馬のおもいで

一歩一歩、踏みしめて、私のはのぼる足が軽快に前に出る

ああ！

今年も白馬に来たのだ

大雪渓をのほりながら思ひ出す

はじめて白馬の頂上に立てた時のこと

はじめてアイゼンをはいて大雪渓を

おりた時のこと

夕陽が山をさつらんく、赤く

そめた時のこと

登りの苦しかったこと

山のすばらしさを教えるくれた白馬

又、またよ、今年もよろしくね。

池田洋子

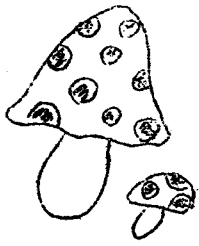
白馬登山に参加して

白馬に登って

白馬登山に参加して

三班 坂口三三子

自分を鍛えていゝる人は、自分を大切にしていゝる人だ。なにげない言葉ですが、私が白馬登山に参加する数日前のことです。朝、金谷山まで、マラソンして行きました。その時出会った老人に二んち言葉を開きました。なにげない言葉ですが、何んとかく励みになり、一層、白馬登山に希望がわき参加しました。参加して、団体登山はあまり経験がないのですが、一つの和になつていくといふことは大変なことですね。私は、三班に属して登りました。途中で記念写真を取つたり和になり「ファイト」で力をつけて登り、リーダー、サブリーダーの人達がみんなを励まし長くまとめて下さいました。苦しみを乗り越えて山頂に登つた快感を忘れず、又山に愛着を感じました。ほんとうに楽しい思い出になりました。



白馬に登つて

四班 高倉三津枝

友達に誘われ、一度は登つてみたか、た白馬岳だったので行く事に決めた。すると、二つし山の会の人達が募集していたものだから、多分を登るのには始めてなので、どうなるかと思つて行くといふみんな山が好きで人達ばかり感じました。理ごとには別れ暗いうちから出発、最初は調子がよかつたが、そのうちに疲れが出て来てみんなと別行動してしまつた。何んで山へ来たのだろうか。二度と来るものかと思つたりして、一歩一歩草履行動、休憩所にみんなが待つていてくれたので班の人達と一緒に頂上に向う。途中のお花畑には季節の花が一面にきれいに咲いていて元気が出て来た。征服した時の満足感これだから又山に登るんだやあと思ひます。大雪道を滑つたり霧んぶりして楽しく下山する事が出来た。午後から霧かかかると様子を聞いていたが、それもななく良い天気になりました。全愛護事に帰れた事は本当によかつたと思ひます。

池田洋子

快晴の白馬に登って

4班 小林敬蔵

私は白馬に登ったのは今回で二度目でした。

去年も同じく「こぶし」の人達につれて行ってもらいました。一日申しとすると降る雨の中を

山に登るのもまた、おもむきのあるものでしたが、頂上についても霧でなにも見えないうには

いささかうんざりしました。それにひきかえ今年は何んとうによく晴れ上った上に見通しが

良くどこまでも見えるという感じでした。

私は今回は写真撮影に重点をおいて去年にも見えなかつた分までフィルムにおさめてこよう

と思つて参加しただけにその天候の良さに感激

して疲れも忘れてバチバチと写真を取りながら登りました。途中ケヤキ平からベースの早い者

と遅い者が別れて登るようになり、私は遅い方のグループに入つて、「もう歩けない」と言う女の人達と一緒に登りましたが、中には

歩けなくて、「こぶしの念」の人に荷物を持ってもらつたりしている姿を見て何かすがすがしい気分

になつて登りました。去年も感じたことですが、「こぶしの念」の人達が適切なアドバイスを

援助を献身的に行なつたことによつて

全員無事に帰つて来られたと思ひます。

これから、こぶしという取り組みを行なつてもいいと思ひます。

4班

菅原善久男

私たち4班は男6名女5名の計十一名の班で

した。私がリーダーとしてみなさんをうまく山に連れていけるか不安でした。みなさんも

どうだつたと思ひます。20日の朝までリーダー

の顔を見ることが出来なくて、不安だつたという

うのがほんとうだと思ひます

班の人達はよく協力してくれて私の不安をいっぺんにとばしてくれました。

みなさんから助けをもらつてリーダーとして

なるとかやれたというのが本当だと思ひます。又、天気が良くてみなさんにとつて一生涯

忘れることのない白馬登山だと思ひます



が、こぶしの念の人達が適切なアトバイスと

初めての登山

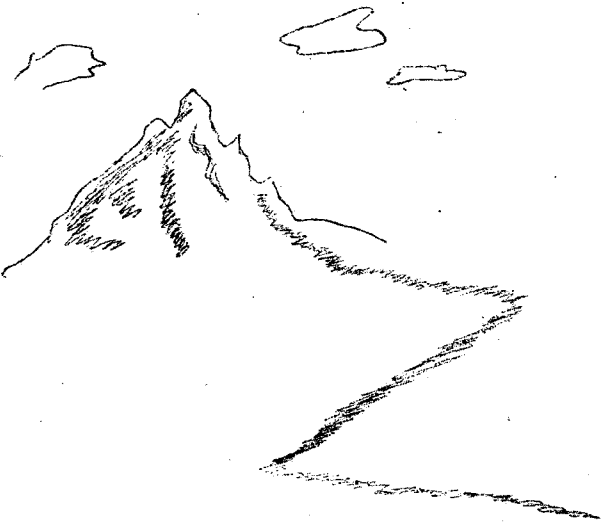
五班 北川しげ子

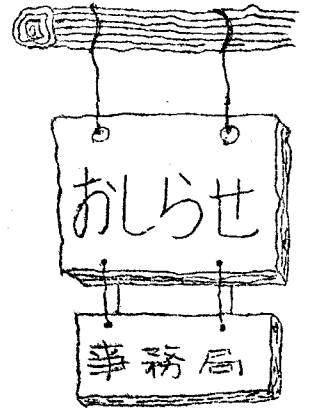
絶好な天候で登山が出来、又それにともないリーダー他係の方々には良く世話をしていた下さ、本当にありがたく思いました。

さマ、今回初めマ「こぶし山の会」に参加させて頂いた下さ、私自身登山は過去一度もなく、今回の登山は非常に疲れました。でも苦しい中にも登り終えた時のあの感情は、やはり登った人でなければわからないことでしょう。(初めマ登っただけなのになまい気だ、そう言われるかも知れません)

リーダーの方に反省を、と書われマ少しこまったのですが……。班ごとにまとまったことは良いのですが、私のように初めマ登るものに説明しま下さる方がいなくマ残念だ

した。お花畑、きれいでした。が花の名前や、山頂の眺めの時の見える山々の名前、できればお知えマいたきたかったのです。自分自身で固くことが出来れば良かったのですが、一人参加の私には出采なかつたもので。巾広い分野で活動なされる会員の方々に、少しでもおやくに立マばと思ひ乱筆乱文ながら一筆書いた幸いです。





事務局ニュース

機関紙「こぶし」

発行

上越こぶし山の会の催物、行事等
「事務局ニュース」及び会機関紙「
こぶし」を御希望の方に送付致しま
す。

料金は両方が年間一五〇〇円（郵
送料含む）です。申込みは、経費を
とえて事務局まで。

事務局「こぶし」 月刊 他に臨時
季刊 他に増刊

事務局

上越市東本町5の1の38
杉本敏宏
TEL 24-3787

◇山娘◇

高い高い頂の
また向こうに海がある
そんな気がして登る山
歩き疲れてくたびれて
千ヨコンと座った岩の上
ほほ打つ風に誘われ
まどろみかけてる山娘

あと少しもう少し
見上げる瞳に飛び込んだ
青い稜線白い雪
お花畑と広い空
登っておいでと誘い込む
赤いリョックをひとゆすり
あと少しもう少し
がんばらなくっちゃ山娘

(小泉芳子)

白馬岳登山の感想

六班 原 修次

私は、このよりの行事に参加させて頂いたのは始めでありましたが、みなさんとお互いに初顔ではありますが、片方が話をかけると必ず相手もそれに答えてくれます、そしてだんだんと会話が進むにつれて楽しさが増して来た事にとっても喜びを感じました。

さう登山は学生のころと今回で二回目ですが、われわれは日頃長距離の歩きをしていないために、さすがに今回の白馬岳は一歩いっぽと歩く苦さがとても身にしみて来ました。でもこの苦しみは体力的に苦しみを味わったと言えますが、もう一つ寝不足というものがあります。しかも今回まったく残念に思ったのは参加者全員が頂上に到着出来なく途中で何人かのものが登山をやめ

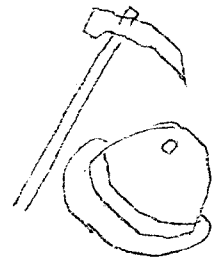
てしまった事です。少し固く言いますと、当然その時苦しいのは自分だけではないはず。自分が苦しければ他人も苦しいはず。自分がくずれずしまえば他人もそれにつれられなくずれずまい団体というものを、ぶちこわすはめになつてしまふものではないかと思われまふ。でも今回の二泊し山の会のみなさんの御指導がとても良く他の方は、みんな笑顔でついに頂上につきました。しかもある人は今まで登山をしなかったほどの天候にめぐまれたのは何回とないと言うことは面白い事。自分でもこの登山の天候にめぐまれたことに對してとても満足に思つています。

そこで、二ムとは下山の際自分の靴でスキーが出来たことでした。また他の登山者達に出会った際に笑いのこもる冗談のかけ声をかけ合つたりしての挨拶が出来、苦しかった上に、またたく楽しかった一日となりました。また、次回にこのような行事があっ

たら、楽しい一日であるように参加させて頂きたく思っています。

白馬登山

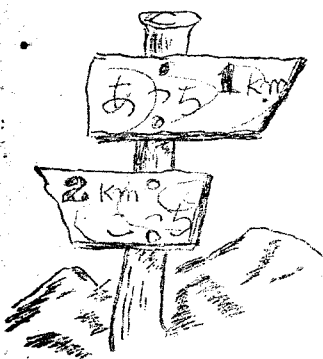
六班 飯塚ハ枝子



二度目の白馬登山、今回は素晴らし
い青空、展望もよく最高でした。
なにかを期待し、なにかを求め登
山する私です。自分の生活の情性を、
少しでも取りさり新鮮さを取り入れた
いのです。

白馬尻から雪渓にはいる時、あっと
思いました。とても美しい風景を絵に
描いたようだったんです。
大雪渓の登りは、足が重く苦しく心
藏も走って、いるようにハアハアです。

私の頭の中は、悩みも忘れ、ただなに
がなんでも頂上まで行かなくはと、
それだけ頭の中にあっと思えます。
お花畑は、疲れももうぐったりしま
いる私たちに、安らぎを与えてくれた
と思います。
鮮やかな景色、印象強かったですね。
遠くに見える妙高山、火打山、こ
なに高い所まで登ったんだわ。班の人
たちも頑張っている。私も頑張ろう。
フアイト フアイト 声をかけま
くれた人がいまいれしかった。
もう、くたくたに疲れましたが、機
会があればもう一度行きたいと思いま
す。



白馬登山感想

八班

山口保男

まず一言にゆうと楽しい山行でした。落伍してリーダーの方に、又皆さんに御迷惑をかけたのが残念でしたが。

これから発展していただきたい山の会ですの一言だけ注文をつけたいと思います。

私は、山に団体として登るのは始めですのよくわかりませんが、比較的の対照がないので、山の行勅というのは会員の方々は満足であったと思います。残念だったのは帰りの車中（二号車）で、会員の方が卒業してアルコイルを飲んで一般参加者と距離ができてしまったことでした。やはりバスから参加者全員をおろすまで、その会のリーダーであつたと思つた。何んでもないことですが、帰りの車中は、私など山の感激の余

語を楽しみたい心境でしたが、つまりぬたわごとを申しました、更に会の発展を願つております。

白馬登山を顧み

八班C

田中 道

昨年の雨をついまの登山と違つた。今日は天候に恵まれ本当に楽しい登山でした。

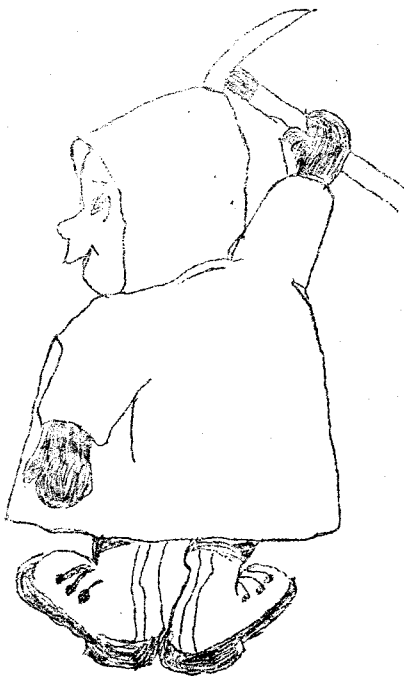
遠く槍ヶ岳や穂高岳、そして剣岳や鹿島槍ヶ岳といった北アルプスの眺めが素晴らしい頂上、高山植物が咲き乱れるお花畑、そして、いかに高いたるを登つていくのだという気分をさせまくれる大雪溪など、今回の山行はこう言つた白馬岳の持つ魅力というものを満喫出来る条件にありました。

欲を言えばもう少し時間に余裕があったなら……ということですが今回はバスの都合上致し方なかったという事になりましようか。

八班は鑛温泉を下るBコースを希望された方々ですが時間の関係上どうしまも中止せざるを得ない結果になつてしましました。目的としつゝいたものがなくなつてしまつて言うのは、一種の挫折感を感じるものぞこの点がやはり一番残念だったように思います。

その他感じた事は、班の人数が多つた名前を憶える事が出来なく、それが班を掌握出来なかつた一つの原因のやうな気がしました。これは、すべりしたる者の能力不足で申し訳なく思ひました。この形の良い山行の良さは一つにはいろいろ人を知るという事があると思ひます。その言ひ観点からしたらまだ／＼なんだなあ——という気がしました。

「こぶし」の白馬登山も今回で三日、本来ならば運営の方も慣れマスム



「こぶし」にいわくも良さそうですが仲々うまくゆかなくマ……というのが実状のようです。今回もいろいろな点で不手際が出たかと思ひます。経験の浅い者が多く運営に参加したからという事もありましようけど、山には通用しない弁解かもしれませんが、二れを一つの反省の材料にして、より進歩した会にしまゆきたいと思つていきますので、次回山の山行の時を又、是非参加しま下さる事を願つていきます。

一般募集登山について

事務局長 杉本敏宏

上越こぶし山の会（JKAC）は、創立されてまだ4年の若い会です。会員数にしても、ようやく40名に近づいた小さな会でもありません。この小さな若い会が、会創立以来毎年夏になると、広く一般市民の方々と対象として募集登山を行なってきました。

46年	苗場山		
47年	穂高岳	一泊	33名
48年	白馬岳	夜行日帰	89名
49年	白馬岳	同石	77名
50年	白馬岳	同石	95名

この間、会の取組みも充実し、参加者も毎年100名に近づくようになりました。今では、この一般募集登山は、JKACの年間行事の

中でも重要な催物として定着しつつあります。会では、さらにこれを発展させ、多くの市民の方々が気軽に登山を楽しめる機会としていきたいと思っております。

現在、日本の登山人口は約一千万人といわれております。へこ此は世界でも比率の高い国のうちに入ります。しかもこの大部分は、勤労者で占められており、年に一度か二度位しか山に行かない（否、行けない）登山愛好者なのです。

ところが日本の登山と登山界の状況は、こうした一般登山愛好者にとっては、非常に不十分、不満足なものです。例えば、ヨーロッパ諸国では、国立の登山学校が常設されていて、アルプス登山のために、だれでも気軽に入校できるようになっていますが、日本にはそういう施設はありません。また、既存の山岳会の多くは、技術偏重主義やエリート主

義におらいっており、一般登山愛好者にはほとんど眼をむけてきませんでした。こうしたことから、日本の多くの登山愛好者は、必要な知識と独力で学ぶしかなく、系統的に技術と習得できない状況におかされていました。そしてそれらのことが、山岳遭難が多発する遠因にもなっていたのです。

登山（日本勤労者山岳連盟）は、日本のこうした登山界の状況を批判し、登山愛好者の大部分を占める勤労者の生活に根ざした登山運動「守く、楽しく、安全に」登山することとスローガンに、一九六〇年に誕生しました。そして、登山は、登山人口の底辺をささえる広範な登山愛好者が、技術的にも、組織的にも、考え方の上でも、気楽に登山を楽しめるようにならないかぎり、日本の登山の真の発展はないと考え、登山愛好者の組織化に取組みはじめたのです。それは、登山自身が

その底辺の役割を果たすと同時に、高度な登山をも実践できる組織になることでもあったのです。こうして、この15年間に、登山は日本の代表的な登山組織にまで成長してきたのです。

JKACは、高田登山と直江津登山が合同して、今から4年前に結成され、登山の一支部として活動してきました。JKACの目標は、JKAC自身が上越の登山界の底辺をささえ、広げ、頂上を高くするような会になることであります。そのためには、JKACの会員が増え、底辺にふさわしい大きさの会にならなければなりません。同時に、必要な技術は学び、開発し、技術的にも高いものをもった会になる必要があります。

また、会と会員が、会員外の登山愛好者の人達と共に登山する校友会積極的につくっていくことは、JKACの目標にむかっている重

取組みはじめたのです。やはり、登山会身か
しくことは
JKACの目標にむかっでの重
要な意味をもっているのです。JKACが毎
年取組んでいる一般募集登山は、こうした意
味をもった重要な行事なのです。

×モ

はじめにも述べましたように、JKACで
は、この一般募集登山を、さらに発展させ、
充実したものにしていくつもりであります。
今回参加された方々も、またの機会に再度参
加されることを期待しております。



ハルカンドウ *Gentiana Thunbergii*

編集
後記

白馬登山、おつかれ
さまでした。

たくさんの方が参加
され、こぶし一同、あつくお礼申し
あげます。

また、多くの人から感想文を書い
ていただき、ありがとうございます。

ところが、会員の原稿がなかなか
集まらず、(しかも最後まで出さない
人がいて)こんなにおそくなってし
まいました。参加者への会の最後の
責任を果す機会でしたので、大変残
念に思っています。

今年にこりず来年もまた、こぶし
山の会の一般蘇東山行に参加して下
さい。
(芳沢記)

こぶし * 6 号

1975年10月3日発行

編集責任者 芳沢喜久男

発行者 上越こぶし山の会
白馬登山実行委員会

新潟県上越市東本町5丁目1の38

TEL 0255 (24) 3787